

## G-4 所有を表す have got における発話行為性\*

日高俊夫 今西真弓  
九州国際大学 九州国際大学  
神戸松蔭言語科学研究所 (科目等履修生)

### 1 分析対象および問題点の所在

イギリス英語における口語表現とされる have got の表す意味・機能を共時的に分析する (have と got の構成的な意味合成や統語構造等も興味深い問題ではあるが、本発表では have got が全体としてどのような意味や機能を持っているかに焦点を当てる)。

- (1) 歴史的発達：get の完了形として初期中英語に現れ、‘have acquired’ を意味したが、次第に完了の意味が弱まり、本動詞 have の同意表現 (=possess) として 16 世紀後半から用いられるようになった。have が助動詞として頻用されるにつれて、本来の意味が薄れたと感じられ、補強表現に have got が転用されたものであろう。(荒木・宇賀治 1984) (おそらく (7b) に示す Jespersen (1931: 47-48) による)

→ では、荒木・宇賀治 (1984) 自身も (3) のような違いがあることを言及しながら、なぜ現代英語においても have は相変わらず所有の意味で用いられ、have got と分布の食い違いを示すのか？

- (2) In conversation and informal writing, we often use the double form *have got*.

*I've got a new boyfriend.* (More natural in speech than *I have a new boyfriend.*)

*Has your sister got a car? I haven't got your keys.*

Note that *have got* means exactly the same as *have* in this case – it is a present tense of *have*, not the present perfect of *get*. (Swan 2016: 24, 下線は発表者)

Jespersen (1931), Visser (1973), Quirk et al. (1985), Swan (2016) をまとめると次のことが言える (同様の説明が中尾・児馬 (1990), *Oxford Advanced Learner's Dictionary*, 『新英和中辞典』, 『ジーニアス英和辞典』等にも見られる)。

- (3) a. 過去時制において用いることは一般的ではない。(??I had got some problems.)  
b. 繰り返しや習慣的状态を述べる場合は一般的でない(??I often have got headaches.)  
c. will, shall の後の不定詞としては用いない。(??You never will have got any sense.)  
d. 命令文には用いない。(??Don't have got anything to do with him.)  
e. 表層上目的語を欠く部分には用いられない。(??I've got nothing yet, but I'll let you know when I have got.)  
f. 特に否定文・疑問文で用いられることが多い。

以上を踏まえて、本発表では次の疑問を解決することを目標とする。

- (4) a. have と have got の「意味」は「同じ」なのか？  
b. (3) の分布はどこから導出するのか？

### 2 先行研究および本発表の主張

- (5) a. 話し言葉では have got は have の、また have got to は have to の代用になる。  
b. 一般に have got (to) は have (to) よりも強調的。 (新英和中辞典)

- (6) a. He has blue eyes.  
b. Look at him; he has got a black eye.  
have が「長い間ずっと持っている」ということを表すのに対して、  
have got は「一時的にその時持っている」ということを表わすことが多い。 (ライトハウス英和辞典)

\*本研究は、JSPS 科研費課題番号 16K02652 「動詞の多義性と文法化の理論的記述・分析—命題の意味、非命題の意味、視点的意味—」(2016 年度～2019 年度、研究代表者：日高俊夫) の助成を受けている。

- (7) a. In colloquial English *I have got* (*I've got*) has to a great extent lost the meaning of an ordinary perfect and **has become a real present with the same meaning as *I have*** ('have in my possession'); and in the same way the pluperfect *I had got* (*I'd got*) has come to be a notional preterit.  
 b. The reason for this development is obviously that **on account of its frequent use as an auxiliary, have was not felt to be strong enough to carry the meaning of 'possess' and therefore had to be reinforced.**  
 c. The corresponding preterit *had got* = '**had**' is not so frequent, though one hears familiarly "I'd got no money, so I couldn't pay him" / Had you got a headache yesterday, since you didn't come? etc.  
 d. Somehow the form with *got* seems **more required in questions than in declarative sentences.** (Jespersen 1931: 47-49, 太字は発表者)
- (8) *Have got*, however, is not an exact equivalent of *have*; it has more grip in it, **emphasizing the idea of the possession or the necessity as the result of some recent occurrence**: 'He has a blind eye,' but 'Look at John; he has got a black eye.' **But in colloquial and popular speech the development has gone farther: *has got* often has the meaning of simple have**: 'What have you got (= have you) in your hand?' (Curme 1931: 360, 太字は発表者)
- (9) [*H*]ave got is not perfective in meaning. If John has got something, then he possesses it now; **there is no implication that he recently acquired it, or even that he acquired it at all** (cf. John's got green eyes). (Fodor & Smith 1978: 45, 太字は発表者)
- (10) There is another informal HAVE *got* construction (cf 3.45), which **although perfective in forms is nonperfective in meaning, and is frequently preferred (esp in BrE) as an alternative to stative HAVE**:  
 John *has* courage. = John *has got* courage.  
**It is particularly common in negative and interrogative clauses.** (Quirk et al. 1985: 131, 太字は発表者)

解決すべき問題：

- (3) の振る舞いの理由は何か？
- 「一時的所有」(ライトハウス英和辞典), 「発話時における所有」(Tamura 2005), 「現在における所有」(登田 1994) 等の説明は妥当か？
- 不可分所有や属性, 総称的な例に対して, 研究者によって容認性が異なるのはなぜか？

- (11) a. John has got courage. (Quirk et al. 1985) / John's got green eyes. (Fodor & Smith 1978)  
 Mary has got brown eyes. (Tamura 2005) / A rectangle hasn't got equal sides. (登田 1994)  
 b. He has a blind eye. (Curme 1931) (登田 (1994) も同様)  
 ?\*A rectangle hasn't got equal sides. (発表者のインフォーマント)

- 過去形でも容認可能とされる例があるが, それはなぜか？

- (12) a. \*Had you got a car when you are a student?  
 b. She had (\*got) blue eyes.  
 c. When I saw Yoko for the first time, I was amazed. She'd got blue eyes.

(12a) の一時的所有の場合即ち過去のある時点での所有が現在どうであるか不明の場合は, had got は不可能であるが, (12c) の譲渡不可能な永続的所有の場合には, 現在時もその所有が持続している可能性があり, had got が容認されるのではないであろうか。(登田 1994)

本発表の主張：

- Have と have got の意味の違いとして, 先行研究で主張されている, have got が「現在時における所有」(登田 1994) や「発話時における所有」(Tamura 2005) の意味を表す」等の分析を批判的に検討する。具体的には, have got は, 富岡 (2010) における「主張行為(話者が真であると思う命題を新情報として提供し, 会話の進歩に貢献する行為)」という発話行為を担うことを示す。
- そのことによって, 先行研究の容認性判断における齟齬が説明されると同時に, (3) について, 単なる記述ではなく, その理由を一般原理的に捉えることができることを示す。

### 3 現在形

#### 3.1 現在時における所有？

登田 (1994) は、have got は現在時における所有の概念を強く示すとし、次の文を適切な文として提示している。

(13) I haven't got any whisky.

しかしながら、(13a) が容認されやすいのは、(14) のような文脈においてであり、単なる事実描写文の場合は、have got よりも have を用いた方が適切である。

(14) Oh my god! I haven't got any whisky. (自宅のサイドボードの中を見ながら)

つまり、登田における (13a) の容認性は (14) のような文脈を前提としている可能性が高い。つまり、「現在における (一時的) 所有」を表しているとしても、それが単なる事実描写である場合は容認性が低下するということであり、この事実は「現在における (一時的) 所有」が have got の本質的な意味ではないことを示唆していると考えられる。

また、インフォーマントによれば、次の文では have got と have のニュアンスが異なる。

(15) a. I have a few bottles of whisky.  
b. I have got a few bottles of whisky.

(15a) はそこで会話が終わっても不自然ではないのに対して、(15b) はそこで会話が終わるとやや不自然で、続けて「だから一緒に飲もう」等の提案がなされたり、話者がウィスキーのボトルを取りに行く等の行為が続くことが自然だという。

以上のことから、have got は、話し手が聞き手に対して新たな情報を提供し、さらなる対話や行為を誘発するという機能を持つことが示唆される。つまり、have got は、それ自体が談話遂行的な機能を持つと言えそうである。

#### 3.2 習慣的状态

登田 (1994) は have got の本質の意味を「現在時での所有」と位置づけ、それが保証されない習慣的な状態を表す (16) では通常 have got ではなく have が用いられるとしている。

(16) \*/??Every year he's got a week's holiday. (登田 1994)

しかしながら、習慣的な状態を表す同様な文も、前節の議論と同様に (17) のような文脈では問題なく容認される。

(17) Amazing! Every year he has got a month's holiday!

このことから、「現在時での所有」の概念は have got の分布を説明する本質的要素ではない可能性が示唆される。

#### 3.3 不可分所有, 属性, 総称的な文

(11) にあるように、いわゆる不可分所有や属性を表す文については研究者によって容認性が異なる。登田 (1994) が「青い目をしている」のような意味には通常 have got を用いないとしているのに対して、Quirk et al. (1985) や Tamura (2005), Fodor & Smith (1978) は類似の文を容認可能としている (一方、登田 (1994) では、A rectangle hasn't got equal sides. は容認可能な文とされている)。

(18)(=11)

- a. John has got courage. (Quirk et al. 1985) / John's got green eyes. (Fodor & Smith 1978)  
Mary has got brown eyes. (Tamura 2005) / A rectangle hasn't got equal sides. (登田 1994)
- b. He has a blind eye. (Curme 1931) (登田 (1994) も同様)  
?\*A rectangle hasn't got equal sides. (発表者のインフォーマント)

Tamura (2005) は (18) の他に、次の例も容認可能なものとして提示している。

(19) Look at that face! He hasn't got any teeth! (Tamura 2005)

発表者のインフォーマントは、次に示すように、(18b)にある A rectangle hasn't got equal sides. と同様の文 (20a) は容認し難いと判断する一方、(20b) のような教授するような文脈では容認性が向上するとの判断を示した。

(20) a.\*A square has got four equal sides.

b. Look at this shape. This is called a square. Remember, a square has got four equal sides.

(20) の文は総称文の中の「定義文」とも呼ばれるものであるが、通常の総称文においても事情は同様である。

(21) a.\*A hawk has got sharp talons.

b. Look at this bird. This is a hawk. Remember, a hawk has got sharp talons.

(22) a.\*A crane has got a long neck.

b. An important distinctive feature of a crane is that it has got a long neck.

以上のデータから、不可分所有、属性を表す文や総称的な文においても have got は容認される場合があり、それは単なる事実描写というよりも話し手が聞き手に対してその文で表される命題を重要な新情報として提示する場合であるということがうかがわれる。

### 3.4 まとめ

これまでの観察から、have got は単なる事実描写文としては容認性が低い一方で、先行研究で容認し難いとされている例や研究者によって容認性判断が異なるような例についても、話し手が、聞き手に、それによって表される情報を会話の進歩に貢献する重要な新情報として伝えるような場合には容認される傾向があるということが言える。

このことから、逆に have got が表す状態が明らかに旧情報である場合は容認性が落ちるという予測が立つ。

一般に、定名詞句に続く制限的關係詞節が表す内容は一般的に前提となり、不定名詞句に続く制限的關係節は断定される(福地 1985, 田中・村上 1995)。

(23) a. The girl I met speaks Basque.

b. A friend of mine who is good at chess will be staying with me for a week. (福地 1985: 171)

次に示すように、have got が定名詞句に後続する場合には容認性が落ちることがあることから本発表の主張は支持されるように思われる。

(24) a.??\*Do you know that girl who has got brown eyes?

b. Could you introduce to me a girl who has got brown eyes?

## 4 過去形

基本的に have got が用いられないとされている過去時制についても、話し手が当該情報を重要な新情報として提示したり、次の対話に繋げる場合は容認性が向上する。

(25) (=7c)The corresponding preterit *had got* = 'had' is **not so frequent, though one hears familiarly "I'd got no money, so I couldn't pay him" / Had you got a headache yesterday, since you didn't come?** etc. (Jespersen 1931)

(26) (=12)

a.\*Had you got a car when you are a student?

b. She had (\*got) blue eyes.

c. When I saw Yoko for the first time, I was amazed. She'd got blue eyes. (登田 1994)

(27) a.??He had got an expensive car in his university days.

b. I was surprised. He had got such an expensive car in his university days!

## 5 法助動詞を伴う例

Will, shall の他、次の例でも「所有状態」を表す意味としては不可(「#」は、目標とする意味(所有)としては解釈できないことを示す)。

- (28) a. #She must have got a boyfriend.  
b. #She may have got a boyfriend.  
c. #She might have got a boyfriend.

これらは「最近彼氏ができた」のような完了の意味としては解釈可能だが、単純な所有の意味には取れない。

## 6 まとめと課題および展望

### 6.1 まとめ

本発表では、(4)の問いに関して、先行研究の「一時的所有」や「現時点での所有」を表すという意味論的な説明を批判的に検討し、have got が富岡(2010)における「主張行為(話者が真であると思う命題を新情報として提供し、会話の進歩に貢献する行為)」という発話行為を担うことを主張した。そのことにより、「一時的所有」や「現時点での所有」を表す場合でも、単なる事実描写文としては容認性が低い一方で、先行研究において容認性が低いとされている「不可分所有」や「習慣的状态」「総称文」「過去の文」においても、それを真の値を持つ(と話者が判断する重要な)新情報として提示するような文脈では容認性が向上することが説明できる。

また、本論の主張が正しいとすると、冒頭(3)の問題点(29にも再掲)について次のように解答することができる。

- (29) a. 過去時制において用いることは一般的ではない。  
← 過去時制の文は事実描写であることが多い。  
b. 繰り返しや習慣的状态を述べる場合は一般的でない。  
← 繰り返しや習慣的状态は事実描写として述べることが多い。  
c. will, shall の後の不定詞としては用いない。  
← モーダル表現を用いる文は真偽値が決められない。  
d. 命令文には用いない。  
← 命令文は真偽値が決められない。  
e. 表層上目的語を欠く部分には用いられない。  
← 表層上目的語を欠く部分は旧情報であることが多い。  
f. 特に否定文・疑問文で用いられることが多い。  
← 否定はそれに対応する肯定の内容がすでに議論されたかあるいはその肯定の内容を聞き手が信じている-よく知っている-と話し手が思っているような文脈で用いられる(Givón 1975)ので、否定文の発話は主張行為となりやすい。疑問文は、真の命題を答として要求する文である。

辞書にはしばしば「強調的」という説明がなされているが、その具体的意味も本発表によってある程度明らかになったと考える。また、have got は口語表現であるから、発話行為的機能を持つことは自然であると考えられるが、先行研究においてお互いに類似した文の容認性が研究者によって異なっているという事実は、これまで発話行為的観点から十分に考慮されてこなかったことの結果ではないだろうか。

### 6.2 課題・展望

- 理論的・構成的意味分析および統語構造：have は主張という発話行為を担う法助動詞であるとする、got が所有を表す動詞であることになるが、その分析は正しいのか。むしろ、歴史的には have got がまとまった形で‘have acquired’から「所有」を表すように変化し、完了表現に伴う「所有」の慣習的含意(Conventional Implicature)が命題化したものと捉えるのが妥当かもしれない。そう考えると、have got 全体で「所有」の意味を表しながらも have は主張という発話行為を担う法助動詞として機能しているということになりそうだが、もしそうだとするとそれは理論的にはどう意味記述できるのか。

- 上記の意味分析に伴う統語構造はどう記述すべきか。先行研究では次のような主張がある。
  - (30) a. have got は get の完了形であり、そこから非完了の意味が特別に読み込まれる (Jespersen 1931)。
  - b. have は主動詞であり、それが法助動詞の統語位置に上昇し、移動の元位置に意味のない got が挿入される (LeSourd 1976)。
  - c. got は状態動詞 have と同じ意味範囲を持つ主動詞であり、意味を持たない have が変形の過程で挿入されるとする分析 (Fodor & Smith 1978)。

本研究の結果からすると (30a, b) の折衷案という感じになりそうだが、現代の理論を使ってどう記述できるのか。

- 本発表の説明は have got to にもあてはまるのか。また、いわゆる「口語表現」と一般に言われているものの中に同様な分析が可能なものがあるか。

## 参考文献

- 荒木一雄・宇賀治正朋 (1984). 『英語史 IIIA (英語学体系第 10 巻)』. 大修館.
- Curme, G. O. (1931). *Syntax: a Grammar of the English Language*. Heath.
- Fodor, J. D. & Smith, M. R. (1978). What Kind of Exception Is *Have Got*?. *Linguistic Inquiry*, **9** (1), 45–66.
- 福地肇 (1985). 『談話の構造』. 大修館書店.
- Givón, T. (1975). Negation in Language: Pragmatics, Function, Ontology. *Working Papers on Language Universals*, **18**, 59–116.
- Jespersen, O. (1931). *A Modern English Grammar on Historical Principles: Part IV*. George Allen and Unwin.
- LeSourd, P. (1976). Got insertion. *Linguistic Inquiry*, **7** (3), 509–516.
- 中尾俊夫・児馬修 (1990). 『歴史的にさぐる現代の英文法』. 大修館書店.
- Quirk, R. et. al (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman.
- Swan, M. (2016). *Practical English Usage: Fourth Edition*. Oxford University Press.
- Tamura, T. (2005). On the Establishment of the Possessive *Have Got* and its Cognitive Motivation. *Tsukuba English Studies*, **24**, 13–31.
- 田中彰一・村上晋 (1995). 「近代英語における関係詞節の意味と機能」. 『研究論文集/佐賀大学教育学部』, **42** (2), 15–29.
- 登田龍彦 (1994). 「Have got に就いて」. 『近代英語研究』, **1994** (10), 57–64.
- 富岡諭 (2010). 「発話行為と対照主題」. 長谷川信子 (編), 『統語論の新展開と日本語研究—命題を超えて』, pp. 301–331.
- Visser, F. T. (1973). *An Historical Syntax of the English Language: Part III, 2nd half*. Brill Archive.
- 辞書等
- 『ジーニアス英和辞典』(第 4 版). (2006). 大修館書店.
- 『ライトハウス英和辞典』(初版). (1984). 研究社.
- 『新英和中辞典』(第 5 版). (1985). 研究社.
- Oxford Advanced Learner's Dictionary (7th Edition)*. (2005). Oxford University Press.